

「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」について

◎ 趣旨

「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」（案）がまとまったことから、その内容及び特徴を報告するもの

1 策定の目的

- ・本市では、平成22年に「宇都宮市自転車のまち推進計画（前期計画）」を策定し、だれもが安全で快適に楽しく自転車を利用できる「自転車のまち宇都宮」の実現に向けて、「安全」、「快適」、「楽しく」、「健康とエコ」を施策の柱に掲げ、自転車走行空間整備などに取り組んできたところである。
- ・前期計画策定から5ヶ年が経過し、安全意識の高まりなど自転車を取り巻く環境が変化してきていることから、安全利用の推進に加え、公共交通との連携や広域的な周遊のツールなど、日常的な移動手段のほか、余暇活動としても幅広く事業の充実を図るため、本計画を策定するもの

2 計画の位置付け

- ・第5次宇都宮市総合計画改定基本計画（後期基本計画）の分野別計画
「円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する」の基本施策
「自転車のまち宇都宮の推進」を実現するための計画

3 計画の期間

- ・前期計画 平成23年度から平成27年度までの5年間
⇒10年後を見据えた5年間の実行計画
- ・後期計画 平成28年度から平成32年度までの5年間

4 策定経過

- ・平成26年 4月～ 後期計画策定に係る基礎調査の実施（現状分析など）
- ・平成27年 4月 後期計画策定について庁議部長会議にて報告
- 7月～ 自転車のまち推進委員会（庁内策定委員会）4回開催
自転車のまち推進協議会 3回開催
- 11月～ 関係部長会議 2回開催
- ・平成28年 1月 政策会議
- 2月～3月 パブリックコメントの実施

5 計画の内容・特徴

(1) 内容

- ・「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」概要版…[資料1](#)，[資料2](#)

(2) 特徴

ア 新たな施策の柱「自転車でつながる」の設定

- ・自転車を取り巻く環境の変化等を踏まえ、「安全」「快適」「楽しく」「健康とエコ」の4つの施策の柱に加え、横断的に様々な事業を展開するため、新たな施策の柱として、「つながる」を掲げる。
- ・「つながる」の柱の下、LRTやバスなどの多様な交通手段と自転車を組み合わせた自転車ネットワークを設定し、利便性を高めるなど、子どもから高齢者まで誰もが快適に移動できる「交通未来都市 うつのみや」の実現を目指す。
- ・また、鬼怒川などサイクリングロードの整備に取り組むほか、市外観光地などとつながるよう市域を越えたルートの設定を行い、誰もが自転車でつながり全国に誇れる「自転車のまち宇都宮」を推進する。

イ 前期計画から強化する施策

5つの施策の柱の下、さらなる「自転車のまち宇都宮」を推進するため、市民意識の醸成に向けて新たに自転車の日を設定することや、自転車走行空間やサイクリングロードの延伸、さらには、本市の地域資源であるジャパンカップサイクルロードレースの拡充など、独自性の高い施策を位置付け、取組を強化する。

① 日本一の整備延長を誇る自転車走行空間のさらなる延伸

- ・自転車事故の抑制につながる自転車レーンについて、「矢羽根」などの活用により、連続性を確保するとともにさらに延伸させ、安全で快適な走行環境を創出し、市民の安全を確保する。

② 自転車利用におけるルール・マナーのさらなる向上

- ・ルール・マナーのさらなる向上を図るため、「第10次交通安全計画」と連携し、子どもから高齢者まで各世代に応じた交通安全教室の実施や、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導を行うとともに、ヘルメットの着用・普及の促進に取り組み、安全意識を高める。

③ ジャパンカップサイクルロードレースを通じたブランド力のさらなる向上

- ・ジャパンカップサイクルロードレースをさらに充実させるとともに、世界規模の大会の誘致に取り組むなど、「自転車のまち宇都宮」のブランド力を一層向上させる。
- ・JR宇都宮駅からジャパンカップコースを結ぶルートの案内誘導の路面標示を検討するなど、来訪者へのサービスの充実に取り組み、レースを通じた誘客促進を図る。

④ 「自転車の日」などの設定による市民意識の醸成

- ・市民一人ひとりが自転車のまちづくりに対する愛着や誇りを持って自転車を利用できるよう自転車の日などを設定するとともに、「自転車のまち宇都宮」の魅力を高め、市内外に広くPRする。

⑤ NCC形成ビジョンを踏まえた自転車と公共交通との連携強化

- ・主要なLRT停留場付近に駐輪場を新設するとともに、LRTへのオフピーク時における自転車積載の可能性について検討するなど、公共交通とのつながりを強化し、自転車利用の拡大を図る。

⑥ サイクリングロードなどを活用した広域な周遊促進

- ・鬼怒川、田川、山田川などサイクリングロードの整備を進め、広域的に連続した快適な走行環境を創出し、ネットワークの強化を図り、余暇活動やレジャーなど多様な自転車利用を促進する。